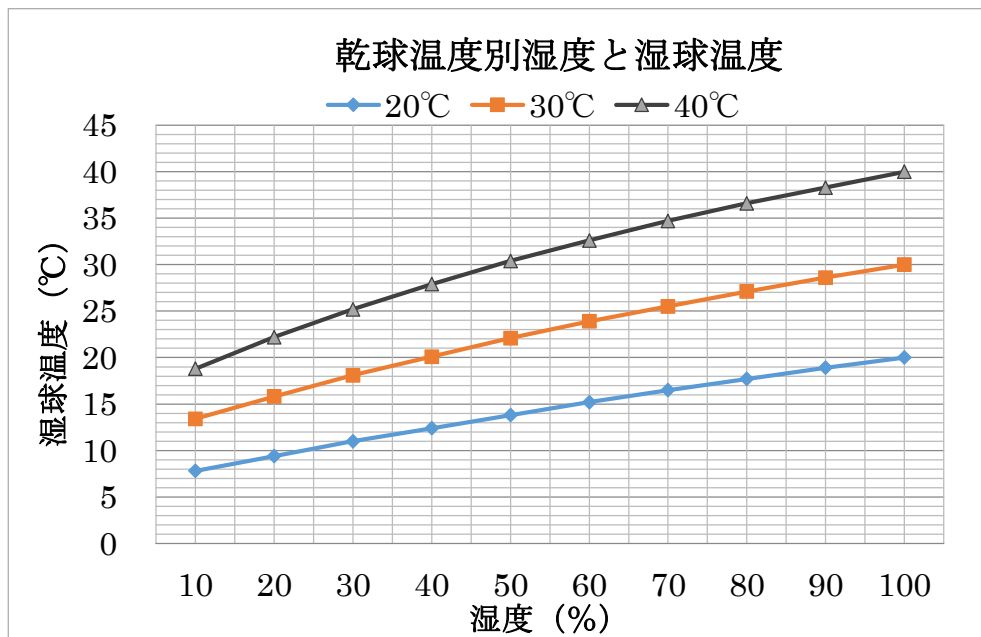


発汗による体の冷却効果と熱中症

環境・健康

暑さや労働・運動により体温が上昇すると、汗の蒸発による気化熱で熱を逃がすことなどにより体温を下げますが、発汗により体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、循環機能や体温調節機能などが破綻すると熱中症になります。

発汗による冷却効果は、乾球温度（気温）と湿球温度（皮膚の汗が蒸発するときを感じる涼しさの度合い）の関係（下図）から類推できます。湿度が100%では水分（汗）が蒸発できないため乾球温度と湿球温度が等しくなり、湿度が低くなるほど水分（汗）が蒸発しやすくなるため乾球温度と湿球温度の差（発汗による体の冷却効果）が大きくなります。



kes サポート

課 題	kes サポート
温熱環境の調査	作業環境測定
衛生診断、リスクアセスメント	作業環境測定結果等に基づく衛生診断、リスクアセスメントの実施
衛生意識の向上	労働衛生教育